

認定こども園たから幼稚園の英語活動について

平成27年11月 栃木県連合教育会発行『下野教育750号』より

..... 実践記録1

「大きくはばたけたからの子」



(学法) 認定こども園たから幼稚園長

馬場 章 信

はじめに

本年四月より幼保連携型認定こども園として再出発した本園は、〇歳から二歳までの保育と、三歳から小学校入学前までの教育と保育を提供する施設となった。

十月一日現在、〇歳児五名、一歳児七名、二歳児十七名、年少児二十四名、年中児二十七名、年長児二十四名、合計百四名と比較的少人数の認定こども園である。

この度、幼児期の英語教育についての取り組みについて、実践事例として原稿を書くよう依頼をいただいた。ひとつの事例としてご一読いただければ幸いである。

毎朝のクリスタム

本園の保育時間は認定によって異なる。1号認定(教育標準時間認定)の子は九時〜十四時、2号・3号認定(保

育認定)の標準時間の子は七時三十分〜十八時三十分、短時間の子は八時〜十六時となる。

朝の登園時間が完了するのは、お迎えの園バスが到着する九時二十分頃。制服から運動着に着替え、全員が朝の身支度を済ませる九時四十分から始まるのが「クリスタム」という英語活動だ。

年長・年中・年少の三学年の子どもたちが、晴れた日は園庭で、雨の日はゆうぎ室で、クリス先生と一緒に英語で歌ったり踊ったりという時間を過ごすのだ。

歌もダンスも、ネイティブの子どもたちが幼児期に体験するものを中心に、クリス先生のオリジナルの歌やダンス、アクティビティを加えて行われる。明るいクリス先生のキャラクターに乘せられて子どもたちは自然とクリス先生のまねをしている。

小学校に入学するまでの三年間、ほぼ毎朝、繰り返し繰り返し体験すること、自然と英語の音に慣れることを



毎朝のクリスタムの様子

ねらったの活動だ。

「ABCのうた」も普通に歌うだけでなく、「ア、ブ、ク、ドウ……」というフォニックスバージョン (Funny English Sounds) も子どもたちは自然に口ずさむようになっていく。

クリス先生の英語の指示で流れるように動く子どもたち、クリス先生の問いかけにも適切に反応する子どもたちに、参観する保護者たちも目を丸くする。

英語教育への取り組み

本園が外国人講師による英語教育に取り組み始めたのは約二十年前のことである。当初は週一回、年長児の正課として行った。その時に出会ったのがクリス先生である。

楽しい英語のレッスンに、子どもたちはすぐに慣れ、積極的に取り組み、英語の時間を楽しみにするようになった。

しかし、年長児ともなると、日本語の音と文字とが結びつき、英語の音に対しても文字に置き換えて聞くようになってしまう。もっと早く英語に触れさせたいとの思いから、年中、年少児から英語の時間を設定しようとしたが、講師確保の問題と費用の問題ですぐには実現させることはできなかった。

益子には陶芸を学びに来る外国人がいる。陶芸家として活躍している方もいる。いろいろなつてを頼りに、なんと

か年少児から英語のレッスンを入れることができるようになった。

当時、小中学校ではALT (外国語指導助手) を必要としていたこともあり、幼稚園とは別に立ち上げた小学生向けの英語教室「たからイングリッシュスクール」の専属講師として所属させながら近隣の町へALTを派遣するという形で、講師の確保ができるようになった。

インターネットで募集を行ったところ、他県でALT契約を終了した方から応募があり、オーストラリア人のジリアン先生、レドルー先生、アメリカ人のエド先生、レティシア先生が一年から二年の契約で講師を務めてくれた。

年長児はクリス先生、年中、年少児は専属講師が担当するというスタイルが定着したが、幼児期にしっかりと英語耳を育てるためには、週一回のレッスンを長くするより、毎日英語に触れることが望ましいということから、クリス先生とカリキュラムを検討し、結果、クリス先生に、たから幼稚園、たからイングリッシュスクール両方の専属講師になってもらい、今のスタイルが確立したのである。

週一回のファンファンキッズ

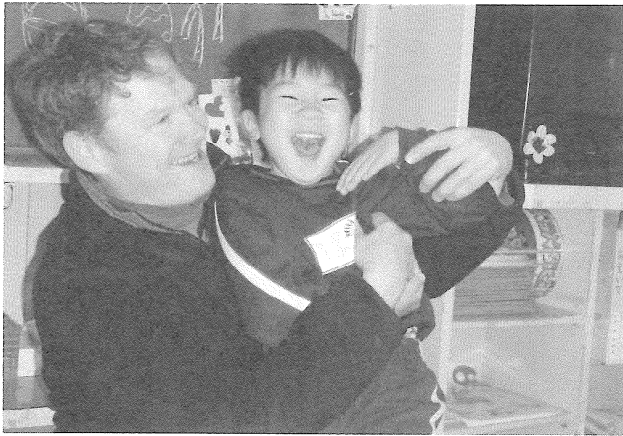
認定こども園となった本年四月からは、毎朝九時頃から、〇歳から一歳の3号認定クラスにクリス先生が訪れ、一緒に遊びながら英語で話しかけたりして過ごす。その後、二

歳児のクラスに移動し、簡単な歌やアクティビティで遊び、英語の絵本を楽しむクリスタイルを行っている。

その後は、三歳から五歳の1号・2号認定クラス活動だ。毎朝、九時四十分から十五分〜二十分程度のクリスタイルを行うのである。

このほかに、年長児は毎週金曜日、一時間程度の英語のレッスンを、年中・年少児は毎週木曜日、三十分から四十分の英語のレッスンを行っている。ファンファンキッズという活動だ。

それぞれの学年のレベルにあわせた、いわゆる英会話をしたり、絵本を読んだり、歌ったり、



クリス先生大好き！



週1回のファンファンキッズの様子

ダンスをしたり、アクティビティを行う。

クリス先生は、英語のみで話しかけ問いかける。特に日本語に訳すことはしない。担任は子どもたちと一緒に参加し、子どもたちの立場でレッスンに参加する形だ。

すべての学年で英語特有の発音を重視しながら、聞くことと話すこと、声を出すことを大事にしながら進められる。独自のカリキュラムに沿って徐々に会話形式でのやりとりが加わっていく。年中児の半ばぐらいからは英語の文字をなぞり書きしてその形を学ぶとともに、文字と音とを結びつけていくフォニックスも本格化していく。

楽しいアクティビティでレッスンを終え、次のレッスンを楽しみにする仕掛けも忘れない。みんなクリス先生が大好きだ。

ハロウィンパーティー

本園は仏教園ではあるが、クリス先生と一緒に、クリスマスやイースター等の行事を楽しむ。十二月には教室から英語のクリスマスソングが聞こえてくる。

子どもたちが一番楽しみにしている行事がハロウィンパーティーだ。

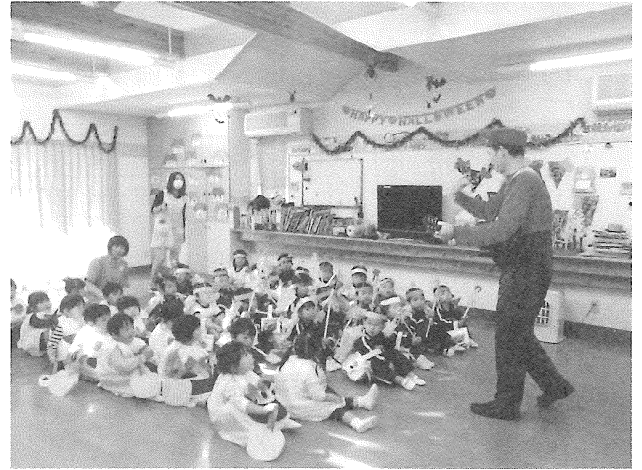
十月の運動会が終わると、ジャック・オ・ランタンを作ったり、ハロウィンバッグを作ったりして準備を始める。ハロウィン当日は、そろいの衣装を身につけたり、家で用意

してもらった衣装で仮装して、「トリック・オア・トリート」、「ハッピー・ハロウィン」のやりとりで、お菓子をもらい、自作のハロウィンバッグに入れていく。

毎年変わるクリスマス生の仮装衣装も楽しみのひとつだ。年長児は二日間にわたってハロウィンに参加する。年中児・年少児が仮装する日は、グループに分かれて園内各所に設けた小さな家で待機し、年中児・年少児の「トリック・オア・トリート」に対して、お菓子を渡す役を担当するのである。



お菓子を渡すのは年長さんの役



楽しいハロウィンパーティ

大きくはばたけたからの子

本年六月にアメリカオハイオ州ダブリン市から三十名ほどの中高生が本園を訪問してくれた。クリスタムを一緒に楽しんだ後、一時間ほど一緒に遊んでもらった。

園児たちはアメリカ人のお兄さんお姉さんの手を積極的に引き、自分たちの遊びに誘っていた。

園庭でサッカーをしたり、砂場遊びをしたり、抱っこしてもらったりと、とても楽しい時間を過ごすことができたのである。

アメリカ人の中高生は英語で話しかけ、園児たちは主に日本語で話しかけると言うやりとりであったが、それでもコミュニケーションは成立し、しっかりと交流できていた。まずはそれで良いと思う。

「子どもはたから」である。それぞれの夢に向かって大きく大きくはばたいていって欲しい。



アメリカ人のお兄さんお姉さんと一緒にクリスタム